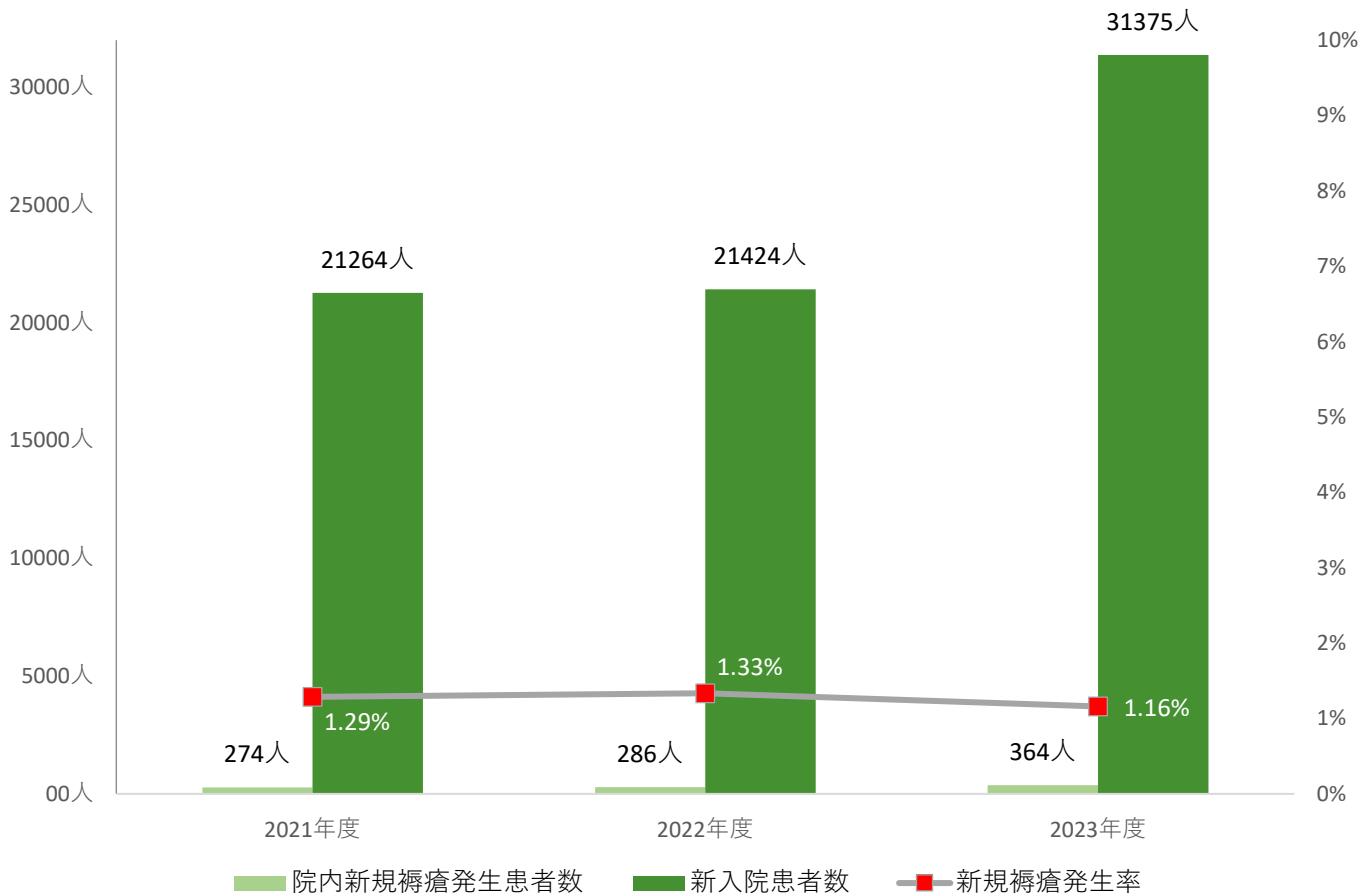


2021年度－2023年度 院内新規褥瘡発生率年度推移



【指標の説明】

褥瘡発生率は、看護ケアの質指標において重要な指標の1つです。
褥瘡は患者さんのQOL低下をきたすとともに、治癒が長期間に及ぶことによって在院日数の長期化や医療費の増加にも繋がります。

2021年度より院内の新規褥瘡発生率について、褥瘡対策チーム内の方針で当院は「d1」(持続する発赤)レベルについても「褥瘡」と捉える、としているため新規の褥瘡発生率は他施設よりやや高くなっていますが、これにより早期から積極的に褥瘡対策チームの介入や病棟への指導を行っていることで皮下組織以上の深い損傷になる割合は少なくなっています。

アフターコロナで、2023年度入院患者さんが1万人程度増加したものの、新規褥瘡発生率は昨年度よりも低下しており、当院の褥瘡への高い意識と対策が功を奏しています。

【計算方法】

分子：d1(持続する発赤)以上の院内新規褥瘡発生実患者数
分母：新入院患者数
分子／分母 × 100

日本医療機能評価機構における褥瘡発生率算出基準の損傷の深さは、当院が基準とする損傷よりも、一段階深い「d2」(真皮までの損傷)から「褥瘡発生」と定義されています。